

# 平成26年度とちぎっ子学習状況調査の結果(速報)及び今後の取組について

栃木県教育委員会事務局学校教育課

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査の実施により本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

### (2) 調査の対象

県内の公立学校に在籍する以下の学年の全児童生徒を対象とする。

#### ア 小学校調査

小学校第4・5学年、特別支援学校小学部第4・5学年

#### イ 中学校調査

中学校第2学年、県立中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

### (3) 調査の内容

#### ア 児童生徒に対する調査

##### (ア) 教科に関する調査

- ・ 小学校調査は、国語・算数・理科の3教科とし、中学校調査は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科とする。
- ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までの学習内容とする。
- ・ 出題内容は、学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等に関わる内容とする。

##### (イ) 質問紙調査

- ・ 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という）を実施する。

#### イ 学校に対する調査

- ・ 学校における指導に関する取組や学習環境等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という）を実施する。

### (4) 調査実施日 平成26年4月22日（火曜日）

### (5) 調査を実施した学校・児童生徒数

	実施校数	内 訳	児童生徒数
小学校第4学年	383校	公立小学校 377校	16,893人
小学校第5学年		特別支援学校小学部 6校	17,397人
中学校第2学年	164校	公立中学校 160校 特別支援学校中学部 4校	17,207人
全 体	547校		51,497人

※調査対象児童生徒の在籍がなかった小学校・特別支援学校小学部 2校  
中学校・特別支援学校中学部 8校

## 2 調査結果の概要

### (1) 教科に関する調査の結果から

#### ア 平均正答率

学 年	教 科	教科全体 (%)	基礎・基本 (%)	思考・判断・表現 (%)
小学校 第4学年	国 語	65.0	65.7	63.1
	算 数	70.4	77.1	52.0
	理 科	69.9	72.2	63.7
小学校 第5学年	国 語	59.8	60.1	59.1
	算 数	72.7	75.2	65.9
	理 科	70.2	70.3	69.8
中学校 第2学年	国 語	68.2	67.4	70.6
	社 会	56.7	59.8	48.9
	数 学	64.2	68.4	52.5
	理 科	60.3	65.4	50.1
	英 語	64.7	71.3	54.7

#### イ 各教科の特徴

◇…相当数の児童生徒ができている点

◆…課題のある点

国 語	小学校 第4学年	◇ 聞き取り問題の話合いの場面で、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くこと ◆ 物語の場面の様子を前後の表現から想像して読むこと
	小学校 第5学年	◇ 聞き取り問題の話合いの場面で、話の中心に気を付けて聞くこと ◆ 物語の場面の様子を、前後の表現を基にして想像して読むこと
	中学校 第2学年	◇ 聞き取り問題の話合いの場面で、話し方の工夫を聞き取ること ◆ 必要な情報をとらえ、条件に従って書くこと
社 会	中学校 第2学年	◇ 海洋の分布や古代文明に共通する特色について理解すること ◆ 円グラフの内容を読み取り、産業の発展について説明すること
算 数 ・ 数 学	小学校 第4学年	◇ 分と秒の単位の間接関係を理解すること ◆ 与えられた時刻から、時間を求め、比較すること
	小学校 第5学年	◇ 表から、伴って変わる2つの数量の関係を発見し、一方の数をもとに他方の数を求めること ◆ 棒グラフと折れ線グラフから、変化の特徴を読み取り、ことばや数を使って記述すること
	中学校 第2学年	◇ ヒストグラムから情報を読み取り、度数分布表に当てはまる度数を求めること ◆ 規則的に並べたマッチ棒の本数が、与えられた文字式で表せる理由を筋道立てて記述すること
理 科	小学校 第4学年	◇ 物は、形が変わっても重さは変わらないこと ◆ 虫眼鏡や方位磁針を適切に操作すること
	小学校 第5学年	◇ 光の当たり方によって、光電池の電気を起こすはたらきが変わること ◆ 人の背中が丸く曲げられる理由を、関節という言葉を用いて記述すること
	中学校 第2学年	◇ 凸レンズの光軸に平行に入った光は、屈折した後、焦点を通ること ◆ 植物の葉のはたらきを調べる実験において、対照実験を行う理由を記述すること
英 語	中学校 第2学年	◇ 短い対話文を聞いて内容を理解したり、適切に応答したりすること ◆ 場面や条件に応じた英文を書くこと

(2) 児童生徒質問紙調査の結果から

ア 教科の学習について

①「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合(%)

学 年	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校第4学年	88.0	84.8	89.0	91.8	
小学校第5学年	90.2	85.6	89.3	92.8	
中学校第2学年	86.2	75.8	79.4	80.5	74.2

②「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合。

学 年	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校第4学年	91.8	92.8	94.3	88.9	
小学校第5学年	94.8	95.1	96.2	88.2	
中学校第2学年	95.4	78.4	89.8	67.9	88.4

イ テレビやビデオ・DVDの視聴時間、携帯電話の使用について

①「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」の質問に対して回答した児童生徒の割合(%)

学 年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
小学校第4学年	16.5	14.4	21.2	25.8	18.2	3.7
小学校第5学年	18.4	16.4	23.7	25.2	14.0	2.2
中学校第2学年	15.1	15.3	26.3	27.8	13.5	2.1

②「携帯電話・スマートフォンを持っていますか」の質問に対し、「はい」と回答した児童生徒の割合(%)

学 年	はい
小学校第4学年	25.8
小学校第5学年	28.7
中学校第2学年	43.3

「はい」と回答した児童生徒だけが回答

③「1日にどれくらい携帯電話・スマートフォンで、電話やメールをしたり、インターネットのサイトを見たりしていますか(家の人との電話やメールはのぞく)」の質問に対して回答した児童生徒の割合(%)

学 年	3時間以上	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	30分より少 ない	全くしない
小学校第4学年	4.1	2.8	4.0	8.9	38.9	39.5
小学校第5学年	3.4	2.4	6.0	9.3	36.5	41.6
中学校第2学年	18.6	15.9	20.4	17.1	17.5	10.4

## ウ 家庭学習について

- ①「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師も含む）」の質問に対して回答した児童生徒の割合（%）

学 年	3時間以上	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	30分より少 ない	全くしない
小学校第4学年	5.5	10.9	27.4	38.3	14.6	3.3
小学校第5学年	4.5	11.5	36.1	35.0	10.8	2.1
中学校第2学年	7.1	25.7	38.3	19.1	7.0	2.8

- ②「次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合（%）

学 年	家で、学校の授業 の予習をしている	家で、学校の授業 の復習をしている	家で、テストでま ちがえた問題につ いて勉強をしている	家で、学校や塾の 決められた宿題の ほかに自分で考え た勉強をしている
小学校第4学年	54.1	59.0	61.5	59.0
小学校第5学年	54.0	62.2	61.5	61.0
中学校第2学年	46.9	67.3	59.0	54.5

## 3 調査結果を活用した今後の取組について

### (1) 児童生徒

自らの学習到達度や課題を確認するとともに、主体的に学習に取り組む際の参考とする。

〔活用例〕

- ・ 個人票、解答用紙のコピー、正答例により課題を把握
- ・ フォローアップシート（復習用資料）により課題を克服

### (2) 学校

児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、課題を明確にすることで、個に応じた指導を充実させるとともに、学習指導の検証改善サイクルを確実に構築・運用し、教師一人一人の指導力向上に努める。

〔活用例〕

- ・ 教科に関する調査結果、児童生徒質問紙調査結果を基に、学校全体で改善計画を立案
- ・ 県教育委員会が作成する指導改善資料を参考に、効果的な指導方法について研究、実践
- ・ 調査結果報告書の分析結果を基に、家庭学習等についての啓発資料を作成し家庭に発信

### (3) 市町村教育委員会

調査結果を踏まえ、学校における学力向上の取組に対して必要な支援を講じる。

〔活用例〕

- ・ 調査結果を多面的に分析し、市町村教育委員会の学力向上策に基づき教師の指導力向上を支援

### (4) 県教育委員会

児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析するとともに、市町村教育委員会と連携して学校の学習指導における検証改善サイクルの構築を支援する。

- ・ 調査結果活用研修会（8/7）を、全公立小・中学校の学力向上担当者等の参加により実施
- ・ 学力向上アドバイザーを学校に派遣し、調査結果を活用した学力向上の取組を支援
- ・ 調査結果の分析に基づく報告書（8月下旬）、指導改善資料（9月下旬）を学校、市町村教育委員会に提供
- ・ P T A 指導者研修等における説明